



刊夕日十月九

發行所 福島縣石城郡平町長橋町五番地
電話 三〇七番
印刷所 本社専屬 陽社

定一部金武錢(廣五號十二)休日曜大祭
一ヶ月掛錢(告五號十二)休日曜大祭
郵税五厘(料五十)日刊
印刷所 本社専屬 陽社

常馨文藝
名月俳見記 (一)
滿壽莊
「月々に月見る月は多けれど月見る月は此月の月」と古人も云ひけん一年一度の清光を賞する仲秋三五の夜訪ふ友もなかと待てどもよ吹く風の外には柴の戸叩くものもなければ、なかつたに獨りあればを月を友
蕪村
など古人の名吟を口ずさみながらつれづれに折し折しもある一行の雁列西の山端かけて竿になり鍵になりつ、啼かわし行くも面白く名月や一聲くもる天津雁 許六
風情なる哉古人の吟いでや今宵の觀月の友に古人を呼び出して談笑の伽とせばやさりとては、
明月の池をめぐりて夜もすから
芭蕉
眺め明さんも亦興なからすやは
名月や壘の上に松のかげの閑居もよけれど、
其角
座頭かど人に見られて月見哉
芭蕉
橋の袂にぼんやりと佇みて千里一點の雲もなき清光に見とる、折柄
月今宵めくら突當り笑ひけり
蕪村
の余興もあるべく
芭蕉
川上の此川下や月の友を偲びつ、
名月や煙り這ひ行く水の嵐雪

看護婦派出
の求めに應ず
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

渡邊藥局
平町三丁目
渡邊政五郎
(郵便局向)

大音堂
建築ペンキ塗
美術諸看板
硝子金銀文字
其他各種
平町四丁目

赤心堂病院
内科・外科・花柳病科
耳鼻咽喉科・婦人科
平町田町電話四七五番

吉田眼科醫院
平町城山(舊城跡三の九)
醫學士青沼淡夫
電話四〇三番

青沼醫院
平町城山(舊城跡三の九)
醫學士青沼淡夫
電話四〇三番

好店
良品ヲ安ク賣ル
クースーリ
關内藥舖
藥劑師 關内 助
電話 四〇三番

佐藤鐵工所
東瓦 壹圓廿錢
瓦 壹圓廿錢
壹噸二付 三十三圓
弊鐵工場が瓦斯コークス販賣元を委屬されて滿五週年に達した御禮心にコークスの御買上が十俵に達しまする毎に有聲座の一等觀覽券進呈します

久野製菓販賣部
福島縣平町一丁目
電話 一五〇番
工場 平町長橋町六十一番地

隨筆
變化の魔手を伸ぶ
長橋野人
人間は進化したとよく現代の者が云ふ、若い者の年寄りより進化したもの、やうに考へる事には、其處に重大にして且低級なる過誤がある、彼等は血氣盛んにして思慮分別に油の乗つた現在と、遂に功成り名遂げて國民としての義務を果し隠退したものと、現在とを比較して若き者は進化せるが如く考へて居る、

然るに、人間の進化なるも併しながら百年前の壯年と

現代の壯年とを比較して、近代科學とか、技能とかを取去つた處の人間として之を比較した場合果して幾何の進化を爲して居るであらうか、彼等の生活には變化はあるであらう面しながら進歩の變はもともとあるとして遅々たるものと感ぜらるる

のを非常に過大に宣傳する人間の一群がある、即ち今日護憲三派と自稱して、用黨としての忠勤を勵む國民に没交渉なる一派である

食指十年辛じて廟堂に立ち得たる現内閣は政友會内閣の施設を片端から破壊し去り多數國民の福利を犠牲にして財閥の御氣を取るを以て前代の内閣より進歩せる施設と考へ恐ろしき變化の魔手を振はん事を痛快として居る、而しながら國民には没交渉である、故に速かに旋回して進化の道程に入らん事を熱望せざる國民は稀であらう、

株式買賣中値
電話に金融致し

電話に金融致し

磐城銀行	五〇、〇	五三、五
平銀行	五〇、〇	六八、〇
磐城銀行	一一、五	一〇、五
磐城銀行	五〇、〇	四〇、〇
磐城銀行	一一、五	一一、五
田村實業	一一、五	一一、五
四倉銀行	一七、五	一七、五
農工銀行	二〇、〇	二四、五
同 新	一五、〇	一八、八
百七銀行	五〇、〇	五五、〇
同 新	一一、五	一六、〇
七十七銀行	一一、五	九、八
郡山電氣	五〇、〇	三七、五
同 新	二五、〇	一七、五
只見川電	一一、五	七、〇
植田水電	一一、五	一五、五
好間水電	一一、五	一三、〇
磐城製糖	二〇、〇	五、〇
平信託	五〇、〇	四、〇
磐城製糖	一一、五	一三、五
植田物産	三〇、〇	二六、〇
平製水	二五、〇	二〇、〇
好間軌道	五〇、〇	三〇、〇
入山新	三三、五	一七、〇
小田炭礦	二五、〇	一五、〇
磐城炭礦	五〇、〇	四一、〇
同 新	一一、五	一八、〇
磐城包マン	五〇、〇	六四、五
同 新	三五、〇	四三、五
平運送	一一、五	八、〇
賣買誠實懇切機敏に御取扱申候間多少に不拘御用命願上候		

平町田町 電話三三三番
丸登株式会社
川添房二郎

大瀧發電所問題の 重大案件を提げて

伏見助役本日出席

縣當局の意向を探ぐる

大瀧發電所問題に關しては、既記の如く攝政宮御還啓に相成りし事として香坂知事は近く何等かの裁斷に出でんものと各方面より注目されつゝあるも其後滞積せる事務も累は處理済みとなりたる等であるに拘らず未だに音沙汰なき爲め町當局も幾分業を衰やしたものの如く既に提起して置いた行政訴訟の公判期日も来る廿七日の事として此場合徒らに日時を遷延し置く譯にはゆか

平陽 實科女學校の校舍成る

工費七萬圓を投じた

地方稀に見る大建造物

平町私立平陽實科女學校は近年校務益々進展し生徒數逐年激増の傾向で校舍狹隘を告ぐるに至り殊に實科高等女學校の制度に準據する事となつた爲め教室を増加すると同時に一層諸設備の完成を果すべき必要を感じ先年來平町操掘小路鐵道踏切傍らに敷地を擁して工費七萬圓を投じて總二階四百八十坪の大校舎を新築中であつたが愈々竣工も間近になつたので縣社八幡の祭禮を期とし十三日午前十時から落成式を

自給肥料

レンゲ栽培

郡當局の談

自給肥料としてのレンゲは近年盛んに作られるやうになつたがこれに就いて郡當局の談に依れば「レンゲの栽培に就いては餘りうまく行かぬやうであるが、その原因として遅蒔

であるのと根瘤菌の接種に留意せぬこと等であるが、初めて下種せんとする處では從來成育良好であつた處の土壤を粉碎してほば種子と同量にまけて下種すれば接種にも都合よく初年から立派に根瘤を生成

愈々平町の隣村に 眞性嗜眠病患者發生

古河炭礦の採炭夫

發熱と同時にグツスリ眠る

恐るべき大正の奇病嗜眠病が石城郡内に襲來する事や惶れて平署其他が豫防上の通牒を各方面に配附する等種々警戒に怠らなかつたが遂に昨日午後四時

好間村

に眞性嗜眠病患者を發見するに至り愈々火は隣元に燃移つたの感がある患者は古河炭礦採炭夫高橋傳六長男傳助(三)

に於て六日發熱と同時に嗜眠状態に陥り九日炭礦醫局長が不審を抱いて診察の結果該病に冒されたものと確診したのである

急報に

接し平署よりは羽岡警察醫及び田村防



家庭 關庭

ソバカスの取方

ソバカスの療法はまだその原因が確かでないためにむづかしいと云はれて居りますが、そのうち電氣療法は

月より八月末日迄約四十件に達したが同署の違反は一年には二千餘件、昨年は七百件、本年は今の處約百卅件位で大分減少して行く傾向であるが是れは料六十銭が三圓になつた關係であるらしいと

伊坂町長快方

伊坂町長は病氣引籠中の處幾分快方に赴き本日役場に出勤し事務を處理した

不平受付

投書歡迎

柳町の道路 最近出来ました柳町二の九間の道路は甚だ不合理なものですアノ暗渠の構造の仕方は何んでアレで金になるのなら私共も平町専門の土木請負人になります(土木學者)

違反が減少

科料値上の爲め

平稅務署に於て他管内より依頼された印紙稅法違反を此の程一齊に檢舉した處四比較的有効です、また次硝酸銻鉛五グラムと白降汞五グラムとワセリン一〇グラムを練り合せたものを皮膚にすりこむとか、過酸化水素水の器法などいふ方法もありますが、一番簡單な方法はたえず乾性マツサーシをする事です、なほソバカスは日光に當つたり、海水浴などすると、一層日立つて來ますから避けねばならぬ

アザのとり方

やはりアザも電氣で分解させるか、ラジウム療法がよろしい、やはりこれは専門醫によらねば素人がするに却つて過ちを起す事が往々あります

常磐片々

本紙は盛んに平町公設市場の無用長物論を説く

是れを讀んだ市場の古川君が攻撃されて反つて賣れ行きが増したと某人に語る

是れをヒカレ者の小唄と云ふ、解りましたか
眞性嗜眠病者が好間村でググウ
寝て居て小便も出來るそうだが希望者はありませんか

小野田の防疫

石城

郡警備小野田炭礦にては腸チフス蔓延の徴ある爲め昨夜山城飯場にて衛生講演會を開き一方豫防注意の宣傳ビラを配附した

今秋の帽子

型は昨年通り

今秋も大体例年と變らず中折の色は茶系統じかも落付きのある氣品のいゝのが歡迎され山はやや高く鏝の折返しは開放しや折りべりが喜ばれリボンと同色の結方は昔に返つた様な傾向もある値段はウール三圓五十銭から五六圓ブ

礦毒問題の

談判を試む

卅六名の委員

が磐城炭礦に

既報石城郡内郷村にては磐城炭礦坑内より排水せる礦毒の爲め水田百餘町歩が枯死及び萎縮した被害夥しき爲め全村の問題として各大

平町人事

出生

- △北日町 當時英城縣多賀郡松岡町 大谷良一氏長男安吉
- △杉平 梶原景雄氏長男景明
- △五丁目 根本一郎氏二男喜一
- △鏡田町 草野七五三之助氏六女巖子
- △古鍛冶町 端山正男氏五女厚子
- △婚姻 △材木町 辻剛吉氏(五)岩手縣下閉伊郡山田生れ佐藤ヤス(四八)